

竈門神社

竈門神社（かまどじんじゃ）は、縁結びの神様である玉依姫命（たまよりひめのみこと）を祀る神社である。宝満山のふもとには下宮、山頂に上宮があり、古来より外国への旅の安全を祈願してきた場所である。

縁結びとは、一般的には恋愛や結婚を連想させるが、恋愛、友情、さらには仕事など、人と人の積極的なつながりを包括するものである。江戸時代（1603-1867）には、若い男女は16歳の誕生日に両親と宝満山に登り、男子は立身出世を、女子は良縁を祈願した。現在、竈門神社を訪れる参拝者の多くは、玉依姫に縁結びをお祈りするために訪れている。御本殿で玉依姫に祈願することに加えて、「再会の木」と呼ばれる御神木の前に立ち、大切な人との再会を祈願することもできる。また、少し離れたところに2つの愛敬の岩がある。片方の岩からもう片方の岩まで目をつぶって進むことができれば、恋が実ると言われている。水鏡は、澄んだ心で自分自身の姿を見つめる者の願いを叶えてくれるという。

竈門神社を訪れる人の中には、漫画やアニメで大ヒットした『鬼滅の刃（きめつのやいば）』のファンもいる。13世紀後半から19世紀後半にかけて、宝満山では修験道の修行者が活動しており、この物語の主人公である竈門炭治郎は、この神社と同じ名前を持つ。